

令和3年度校内研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、考えを深めることができる児童の育成
～論理的思考を養うための指導法の工夫～

2. 主題設定の理由

(1) 今日の研究課題

学習指導要領や県の学校教育指導重点で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることが求められている。学習指導要領では「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」を育成する過程の中で、特に次のような思考・判断・表現を行うことが大切であるとされている。（新学習指導要領答申 p 30 脚注より）

- ① 新たな情報と既存の知識を適切に組み合わせ、それらを活用しながら問題を解決したり、考えを形成したり、新たな価値を創造して行くために必要となる思考
- ② 必要な情報を選択し、解決の方向性や方法を比較・選択し、結論を決定していくために必要な判断や意思決定
- ③ 伝える相手や状況に応じた表現

また、近年行われてきた学力検査の結果などからも、「論理的思考力の育成」が大きな教育課題とされている。

そこで、論理的思考を促す学習過程に焦点を当て、毎日の授業の中で児童が自分の考えをもち、伝え合い、自分の考えを深められるような働きかけの工夫をしていくことが大切であると考える。そのため、「どうすればよいか。」「どう思うか。」という漠然とした問いではなく、児童に考えるための思考方法を示すようにするにはどのような方法・手立てがあるかを、まず全体での学習会を通して共通理解を図りたい。それをふまえて、具体的な指導方法を工夫し実践していくことで、論理的思考を養う学習指導ができると考える。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は以下のとおりである。

学校教育目標

「知・徳・体」の調和のとれた児童の育成を図り、児童一人一人のよさや可能性を伸ばす。

◆めざす子ども像

- 心豊かな子 素直で明るい子ども 思いやりのある子ども
(思いやり・感謝・情操)
- 考え深い子 進んで学習する子ども 精一杯努力する子ども
(創造・思考・意欲・実践)
- たくましい子 心身ともに健康な子ども 最後までやりぬく子ども
(健康・安全・気力・忍耐)
- 力を合わせる子 互いのよさを認める子ども 協力する子ども
(自律・責任・協力)

◆学校経営の最重要事項

『一人一人を伸ばす心のこもった教育の展開—「ていねいさ」と「続けること」—』

研究テーマ「自ら学び、考えを深めることができる児童の育成」は、学校目標の具体目標の一つである「考え深い子」と大きく関わっている。さらに、「論理的思考を養うための指導法

の工夫」について「ていねいに」「続ける」ことで、一人一人の力を伸ばすことにつながると考える。

(3) 児童の実態から

意欲的に考えを発表したり、自分の力で課題を解決しようとしたりする児童もいるが、学習に対して受け身の姿勢で、友達や教師が答えを導いてくれるのを待っているといった態勢の児童も多い。特に、授業中に自分の考えを自信をもって発表したり、根拠を明らかにしながら説明したりすることのできる児童は固定されてきている。

このことから、筋道を立てて考えたり、順序立てて考えて自分の思いを表現したりする学習を十分に行っていく必要があると考えられる。

3. 研究目標

論理的思考を養うための指導法の理論研修を行い、その実践を通して、自ら学び、考えを深めることができる児童を育成する。

論理的思考力とは・・・自分の考えを根拠や理由をもち、筋道を立てて説明する力
筋道を立てて説明するには、順序立てて考えたり、比較・分類して考えたり、関係づけて考えたりする必要がある。意図的に順序立てたり、比較したり、関係づけてたりしながら説明する力が付けば、聞く場面でも、比較したり、関係づけてたりしながら聞くことができると考える。その力は、自分の考えを伝え合ったり、聞き合ったりする場面で生かされ、自分の考えを深め、広げることにつながると考えた。

児童に身に付けさせたい力

低学年 考えをもつ

- ・自分の考えをもつことができる。
- ・他者の考えと比較し、違いが分かる。

中学年 考えをまとめる

- ・自分の考えを順序立ててまとめることができる。
- ・考えについてそれを支える理由付けができる。

高学年 考えを伝える

- ・自分の考えを順序立てて根拠・理由を明らかにしながら説明することができる。
- ・聞き手を意識しながら、分かりやすく伝えることができる。

4. 研究の内容

(1) 「論理的思考」についての学習会・理論研究

(2) 論理的思考を養うための授業実践と参観・学年ごとの振り返り（研究授業・一人一実践）

5. 研究の方法

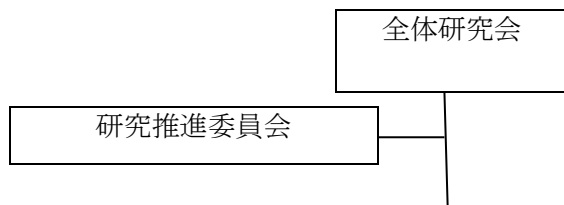
(1) について

- ・大学の先生を講師にお招きしての学習会を行い、『論理的思考』についての考え方や授業での具体的な手立てについて共通理解を図る。（1学期 国語科・算数科）

(2) について

- ・国語，算数の研究授業・研究会を行い，大学の先生からご指導いただく。
- ・一人一実践（ウェルカム授業）を行い，学年間（可能な範囲で学年以外でも）で参観し合う。
- ・指導案はその時間の「工夫したポイント」が明確に分かる「授業デザイン」とする。（形式は後日提案）
- ・授業後のまとめ・振り返りを学年ごとに行う。研究会（全体会）でその内容を報告し合い全体で情報共有を図る。（学年ごとの振り返りでは，参観の視点をしっかりともち，感想発表で終わらないよう，お互いの学びの時間としたい。）
- ・初任研の教科授業や，評価授業を兼ねられるような時間を工夫したい。

6. 研究組織



学年部会	※各学年担任+教務の先生方で構成する
1年	三枝(陽) 佐々木 保坂 小林 岩間(仁) 佐藤 古屋(秋)
2年	小澤(陽) 降矢 田中(洸) 三井 鈴木 米山
3年	阿部 堀内 三科 那口 小松 竹井
4年	永井 栗生田 高野 飯野 教頭 三枝(淑) 奥山
5年	田中(聡) 藤川 牛奥 小松澤 古屋(明) 半田
6年	井筒 柏木 岩間(香) 内藤 校長 小澤
すみれ	末木 田部井 中沢 中村 村松 佐野

7. 研究経過

研究会名	開催日	主な形態	主な研究・活動内容
第1回校内研究推進委員会	4/14	推進委員会	○今年度の研究についての検討 ・研究の概要（研究主題，副主題，研究計画，研究組織等）
第2回校内研究推進委員会	4/30		
第1回校内研究会	5/12	全体研	○今年度の研究についての決定 ・研究の概要（研究主題，副主題，研究計画，研究組織等）

第2回校内研究会	6 / 15	学習会	○論理的思考について学習会（国語科） 講師 山梨大学大学院総合研究部教育学域 教育実践創成講座 准教授 茅野 政徳先生
第3回校内研究会	7 / 14	学習会	○論理的思考について学習会（算数科） 講師 山梨大学大学院総合研究部教育学域 教育実践創成講座 教授 早川 健先生
第4回校内研究会	7 / 21	全体会	○2学期の実践に向けての授業デザイン作成 の検討・確認 ○GIGA スクール 学習会
第5回校内研究会	8 / 18	全体会 学年	・教育課程還流報告 ○2学期の実践授業の確認 ○学年・個人での授業デザイン作成
第6回校内研究会	10 / 6	全体会	○道徳学習会 講師 山梨大学大学院 教育学研究科 准教授 田中 一弘先生
第7回校内研究会	10 / 25	部会	○部会研究会 ・学年ごとに「ウェルカム授業」の振り返りと、 今後の授業検討
第8回校内研究会	11 / 9	全体会	○国語科研究授業・研究会 4 - 3 高野 友輔教諭 講師 山梨大学大学院総合研究部教育学域 教育実践創成講座 准教授 茅野 政徳先生
第9回校内研究会	11 / 24	全体会	○算数科研究授業・研究会 5 - 4 小松澤 輝美教諭 講師 山梨大学大学院総合研究部教育学域 教育実践創成講座 教授 早川 健先生
第10回校内研究会	12 / 22	学年	○学年ごと、成果と課題・来年度の方向性の話し合い
第11回校内研究会	1 / 31	全体会	○成果と課題・来年度の方向性について ○来年度の方向性について

